

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業名	救急救命士養成事業			会計	款	項	目	大	小
				01	09	01	01	07	51
政策	02	2節	生活の豊かさを実感できる流山（生活環境の整備）	主管課	消防総務課				
施策	2-3		自然災害・都市災害への備えと予防	主管課長	須藤 恭成				

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	救急隊員	意図	救急救命士の資格を取得し、高度救急への対応能力を備える。
事業内容	救急隊員として必要な基本教育を習得するため千葉県消防学校へ派遣するほか、救急救命研修所に派遣し救急救命士の資格を取得させる。			
事業開始から現在までの状況変化	高度な救命処置を要望する国民の声が高まり、平成3年4月に救急救命士法が施行された。現在5台の救急車で29人の救急救命士が活動している。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）	
	①	救命研修所派遣人数	1	1	1	人	→→	
②	県消防学校派遣人数	4	4	2	人	→→		
③	指導救命士養成研修所派遣人数	1	1	1	人	→→		
④	救命士追加講習派遣人数	6	8	3	人	→→		
⑤								
⑥								
指標で表すことができない定性的な成果						目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況） 救急救命士の救急車搭乗率は、4つの消防署間において救急救命士の勤務の入れ替え調整を行い、おおむね100%を確保している。 また、197名の心肺停止事案に対して救急救命士が130名の方に救命処置を行いその内2名の方が社会復帰を遂げている。		
事務事業のコスト		平成28年度	平成29年度	平成30年度				
事務事業の総コスト(a=b+c)		8,250,285	8,821,434	8,133,016				
事業費(b)(円)		4,131,285	4,123,034	3,518,616				
うち一般財源		4,131,285	4,123,034	3,518,616				
職員給与と費(c)(円)		4,119,000	4,698,400	4,614,400				
人役・職員(人)		0.60	0.70	0.70				
人役・再任用(人)								
人役・臨職(人)								
人役・嘱託(人)								
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）								
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）								

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	II 継続（事業を現状どおり継続すべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

①H30当初の改善計画(Plan)	より高度な救急処置を施すには救急救命士の資格が必須条件である。指導救命士の育成や救急救命士の処置拡大に伴う追加講習への派遣を実施したい。	③取組における課題(Check)	救急救命研修所に入所を希望する職員を増やす。
②H30に実施した取組(Do)	1名救急救命士研修所に入所し、国家試験合格。救急救命士の処置拡大に伴う追加講習に職員派遣。指導救命士の養成のため職員派遣。	④課題に対する今後(H31~)の改善計画(Action)	現在の有資格者の将来的な高齢化や救急隊の増隊を含め、今後も計画的に救急救命士を養成する。